

平成30年3月期(第28期)

決算説明資料

株式会社インターワークス(6032)



interworksinc.

証券コード 6032

1

平成30年3月期(第28期) 決算概要

2

平成30年3月期(第28期) セグメント別実績

3

平成31年3月期(第29期) 計画

4

平成31年3月期(第29期) の成長戦略

1-1 平成30年3月期(第28期)連結業績

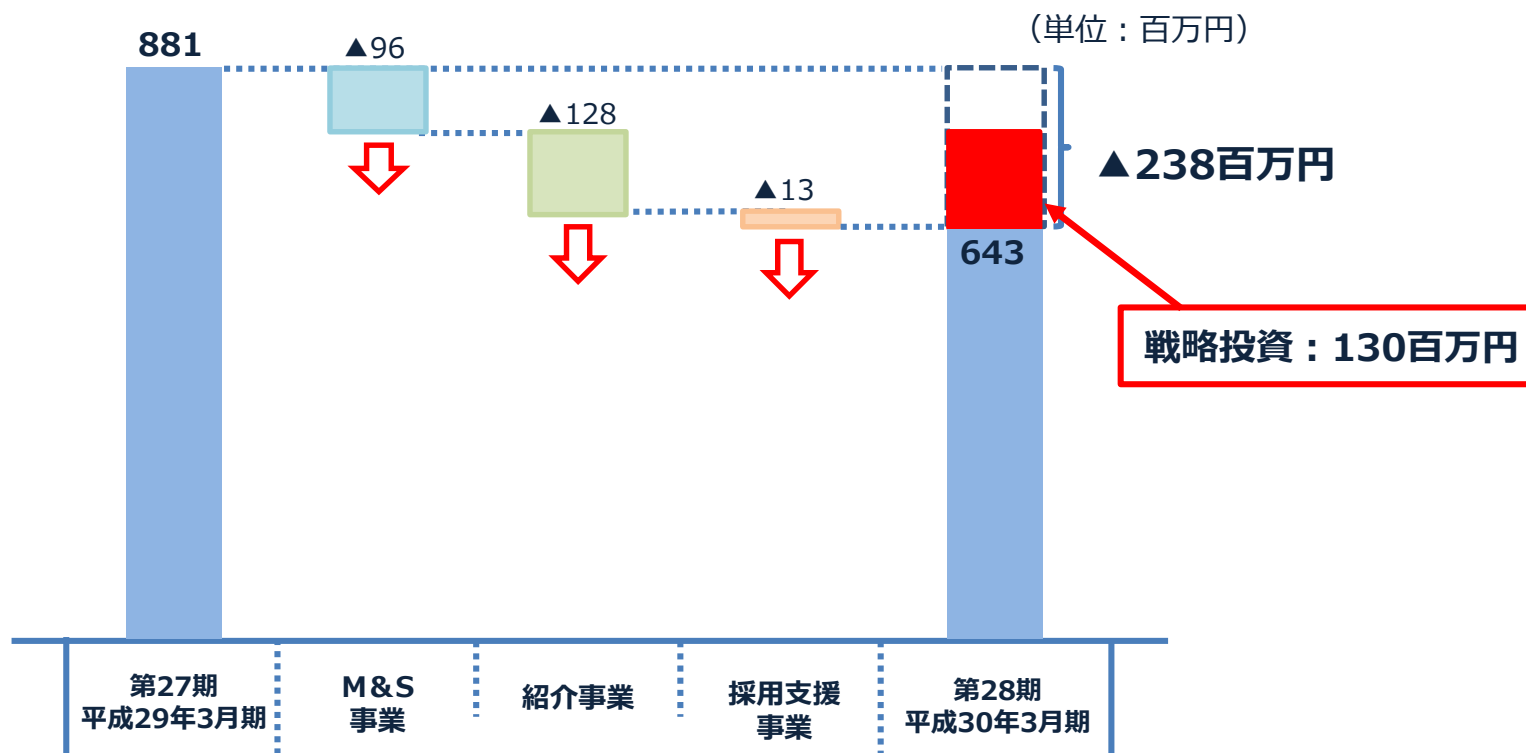
- ・ 2月1日修正発表の見通しに、おおむねオンラインで着地。
- ・ 3つの事業ともに、ほぼ前年並みの売上であるが、当期に取り組んだ構造改革の成果が、下期増収というかたちで、徐々に現れ始めている。
 - 前期売上実績比・97%（上期）、101%（下期）
 - 増収基調で、4月スタート

単位：百万円	平成30年3月期 ＜修正予想＞	平成30年3月期 ＜実績＞	対修正予想比	平成29年3月期 ＜実績＞	対前年比
売上高	4,050	3,968	98.0%	4,000	99.2%
営業利益	650	643	98.9%	881	73.0%
経常利益	650	645	99.2%	882	73.1%
当期純利益	425	430	101.2%	583	73.8%

※百万円未満は切り捨て表示

1-2 前期との差異分析(営業利益)

- ・ 営業利益は前期比で238百万円の減益
→主たる要因は、成長戦略投資 130百万円 (* 3Qまでの開示の通り)



※百万円未満は切り捨て表示

1-3 剰余金の配当について

期末配当（年間配当金）は30円00銭（配当性向67.4%）

剰余金の配当

	年間配当金	配当性向
28期(平成30年3月期)見込み	普通配当 30円00銭	67.4%
27期(平成29年3月期)実績	普通配当 26円50銭	43.9%

※配当性向は、連結ベースで計算しております。

※当社は、平成30年5月9日に開催された臨時取締役会にて剰余金の配当額が確定いたしました。

※28期・配当金は、平成30年6月1日に支払いを予定しております。

1

平成30年3月期(第28期) 決算概要

2

平成30年3月期(第28期) セグメント別実績

3

平成31年3月期(第29期) 計画

4

平成31年3月期(第29期) の成長戦略

2-1 M&S事業の状況

- ・ M&S事業の売上は前期比でほぼフラット。
 →主力の工場ワークスは、前期比7%以上の伸びを維持。
 →前期は収益に寄与しないメディア（アパレルワークス・販売接客ワークス
 アルバイトネット・エンジニアゲート）の撤退を実施。
- ・ 営業利益の減少はITインフラの整備（当期は準備のための調査）と
 広告宣伝費増が主な要因。

単位：百万円

平成30年3月期
 <実績>

平成29年3月期
 <実績>

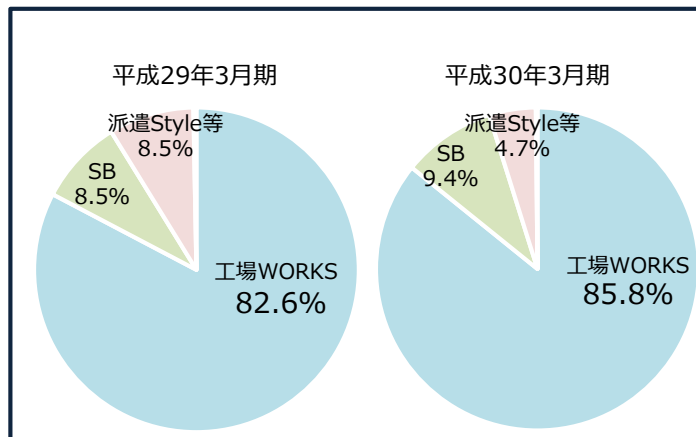
対前年比

M&S 事業 (メディア事業)	売上高	1,907	1,891	100.8%
	営業利益	494	591	83.7%

<商品別売上構成比>

<工場ワークス指標>

M&S
事業
(メディア事業)



※顧客単価は大きく伸長（大手メーカーの受注が寄与）

	平成29年3月期	平成30年3月期
年間平均単価	35.8万円	41.6万円 (116.2%)
年間取引社数	4,386社	3,945 (89.9%)

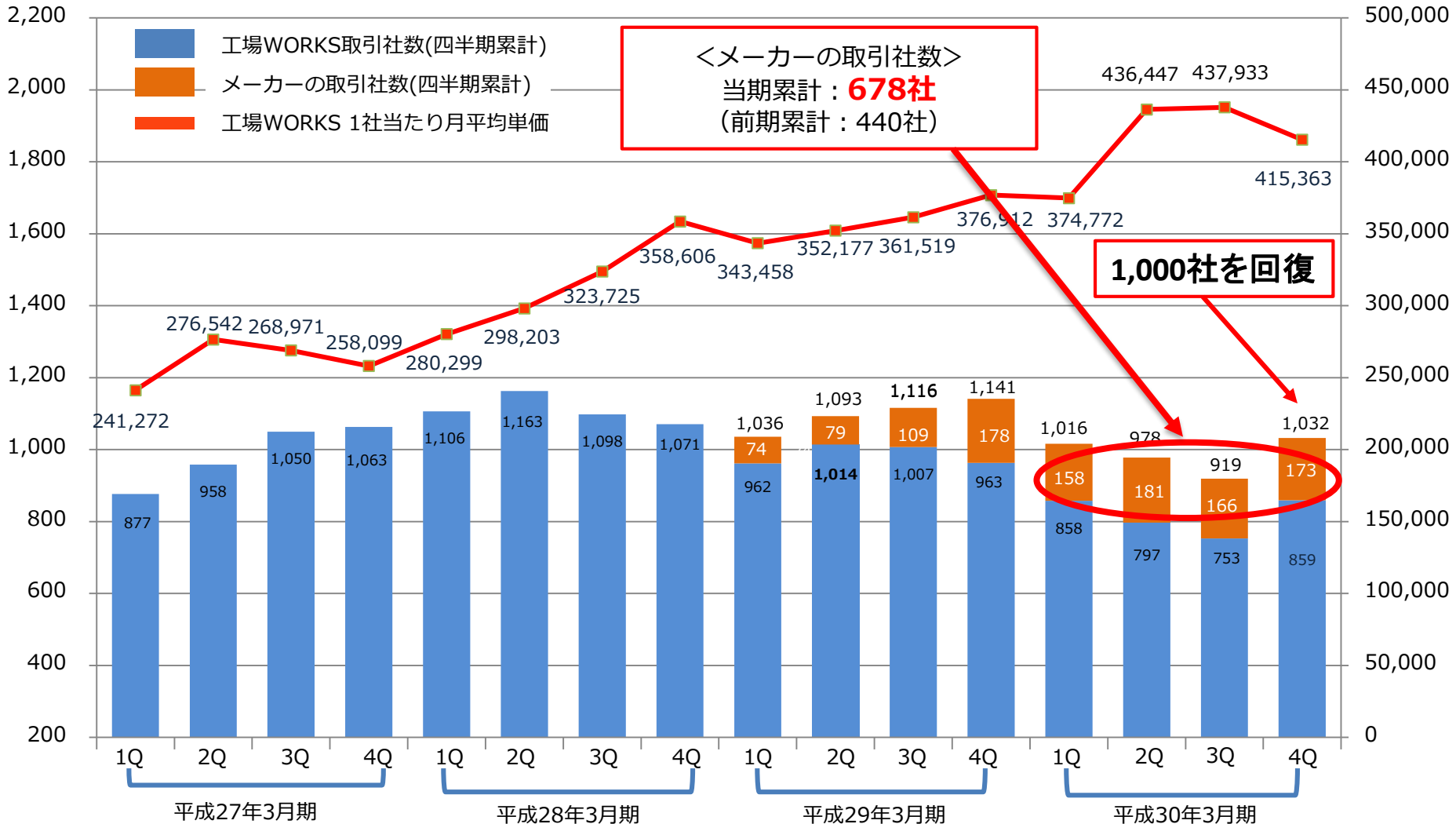
※詳細な推移は次ページをご参照下さい

* SB：派遣会社向けにホームページ制作や診断ツールの提供

<参考> 工場ワークス 1社当たり単価/取引社数

単位：社

単位：円



2-2 紹介事業の状況

- ・コンサルタントの増員は計画通りに進捗、単価も堅調に推移（下表に記載）
- ・上期に増員したコンサルタントの成約ピッチが、期初計画比でやや遅れたことが、減収の要因であるものの、第4四半期（1月～3月）の成約は前年同時期対比130%を達成
- ・上期に増員したコンサルタントの人件費増が、減益要因

単位：百万円

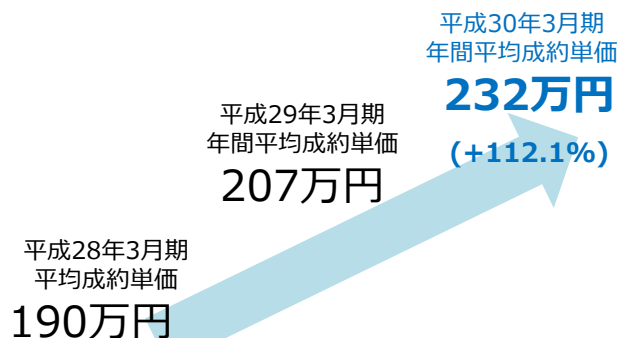
平成30年3月期
＜実績＞

平成29年3月期
＜実績＞

対前年比

	平成30年3月期 ＜実績＞	平成29年3月期 ＜実績＞	対前年比
紹介事業 売上高	901	920	97.9%
営業利益	100	228	43.9%

＜成約単価推移＞



＜コンサルタント人数＞

当期のコンサルタントの増員人数は計画通り

2017年4月	2016年4月	差
31	34	▲3
2018年4月	2017年4月	差
54	31	+23

注) 成約単価：成約1件あたりにクライアント企業から頂くコンサルタントフィー

2-3 採用支援事業の状況

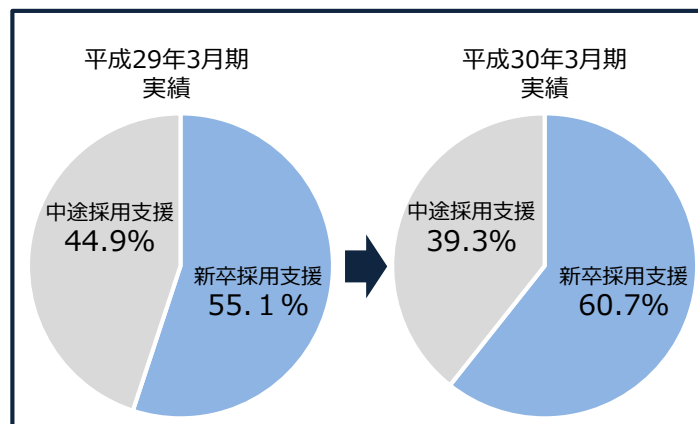
・売上は前期比でやや減収であるが、営業戦略に基づいて、新卒採用支援事業の売上構成を高めた

→HR-technologyアウトバウンド型新卒採用支援事業の売上拡大

→新規顧客の拡大（下表の通り）

	単位：百万円	平成30年3月期 ＜実績＞	平成29年3月期 ＜実績＞	対前年比
採用支援事業	売上高	1,160	1,188	97.6%
	営業利益	48	61	78.7%

＜新卒採用支援と中途採用支援の売上構成比＞



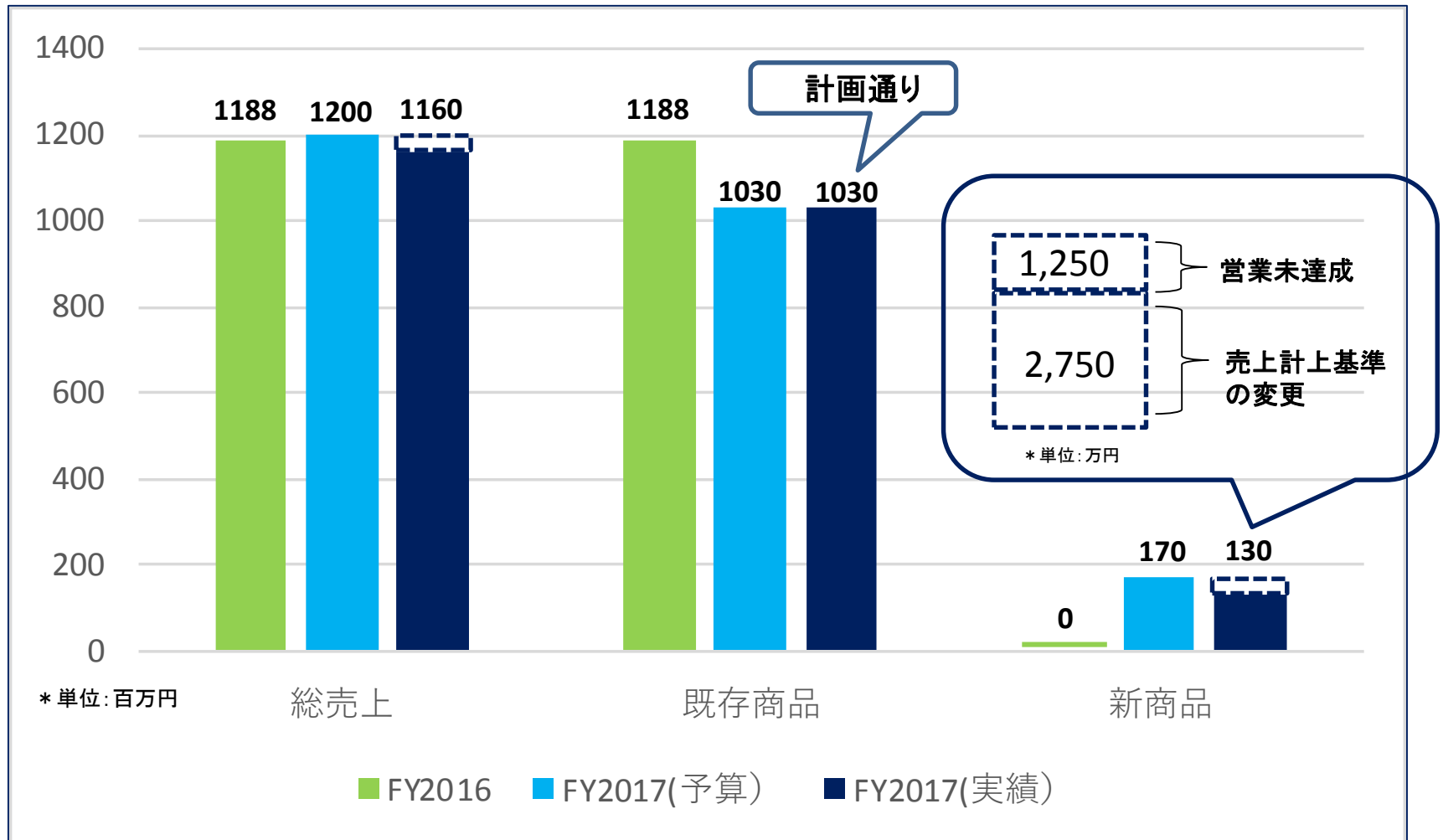
＜アウトバウンド型新卒採用支援事業の進捗事例＞



採用支援事業

<参考> 採用支援事業の売上構成の推移

- ・前期比で、既存商品の売上は計画的に落としていくが、新商品（HR-technologyアウトバウンド型新卒採用支援事業サービス）の売上を新たに積み上げている。
- ・売上計画の未達成の主因は、新商品（Web広告商品）の売上計上基準の変更



1

平成30年3月期(第28期) 決算概要

2

平成30年3月期(第28期) セグメント別実績

3

平成31年3月期(第29期) 計画

4

平成31年3月期(第29期)の成長戦略

3-1 平成31年3月期(第29期) 計画

- 売上高は対前年比121%の成長を計画
 - 営業利益は対前年比126%の成長を計画
- 戦略投資は、1.3億円（前期水準）を上限として継続

単位：百万円	平成30年3月期 ＜実績＞	平成31年3月期 ＜計画＞	対前期比 ＜金額＞	対前期比 ＜率＞
売上高	3,968	4,800	+832	121%
営業利益	643	810	+167	126%
経常利益	645	810	+165	126%
当期純利益	430	560	+130	130%

3-2 剰余金の配当予想について

- ・ 配当金30円00銭予想(配当性向51.8%)
→配当性向40%以上の公約を守りつつ、配当額を維持

剰余金の配当予想

	年間配当金	配当性向
29期(平成31年3月期)見込み	普通配当 30円00銭	51.8%
28期(平成30年3月期)見込み	普通配当 30円00銭	67.4%

※配当性向は、連結ベースで計算しております。

1

平成30年3月期(第28期) 決算概要

2

平成30年3月期(第28期) セグメント別実績

3

平成31年3月期(第29期) 計画

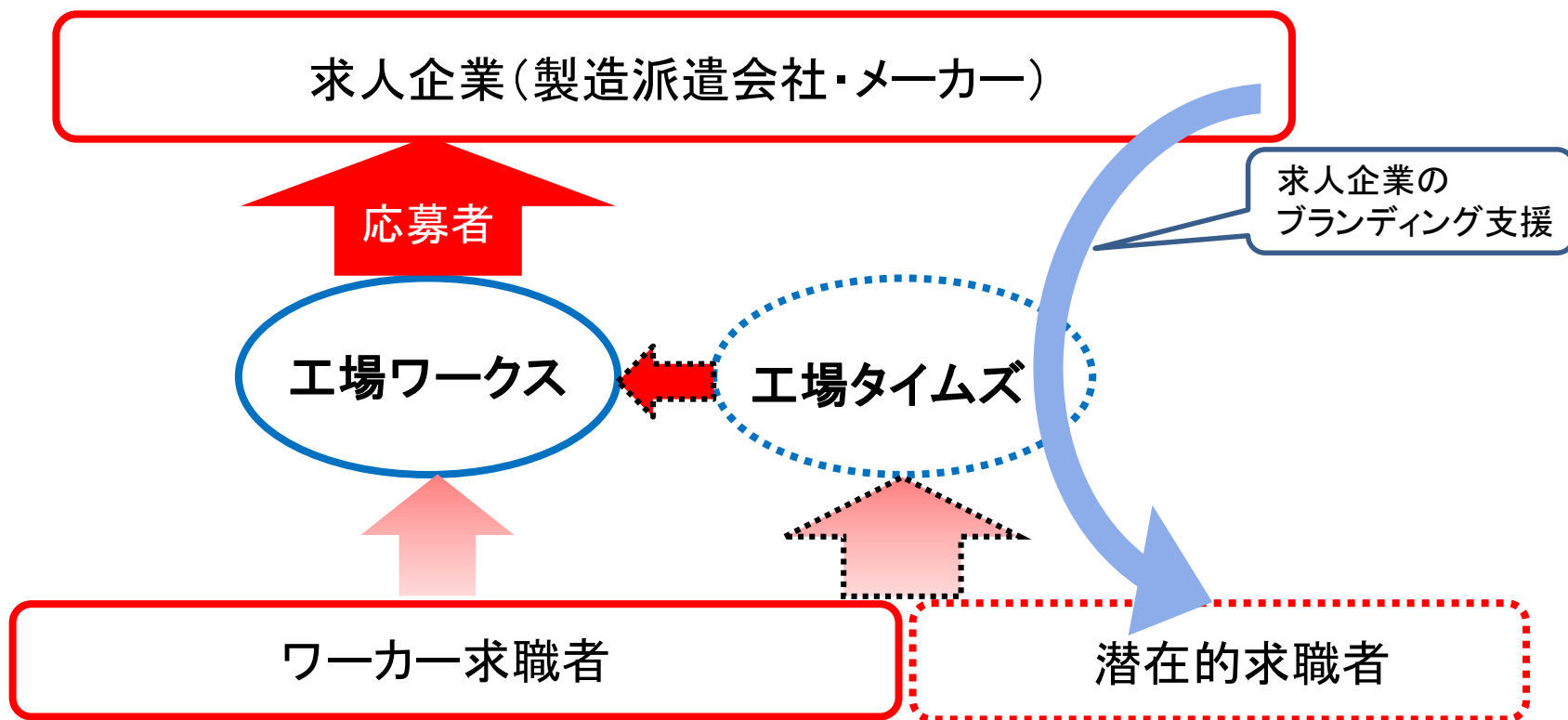
4

平成31年3月期(第29期) の成長戦略

4-1 M&S事業の成長戦略

- ・ ワーカー求人領域No.1の「工場ワークス」のメディア・パワーを強化
→ 「工場ワークス」への送客メディアとしての「工場タイムズ」をパワーアップ

* 「工場タイムズ」：ワーカー向けコンテンツメディア



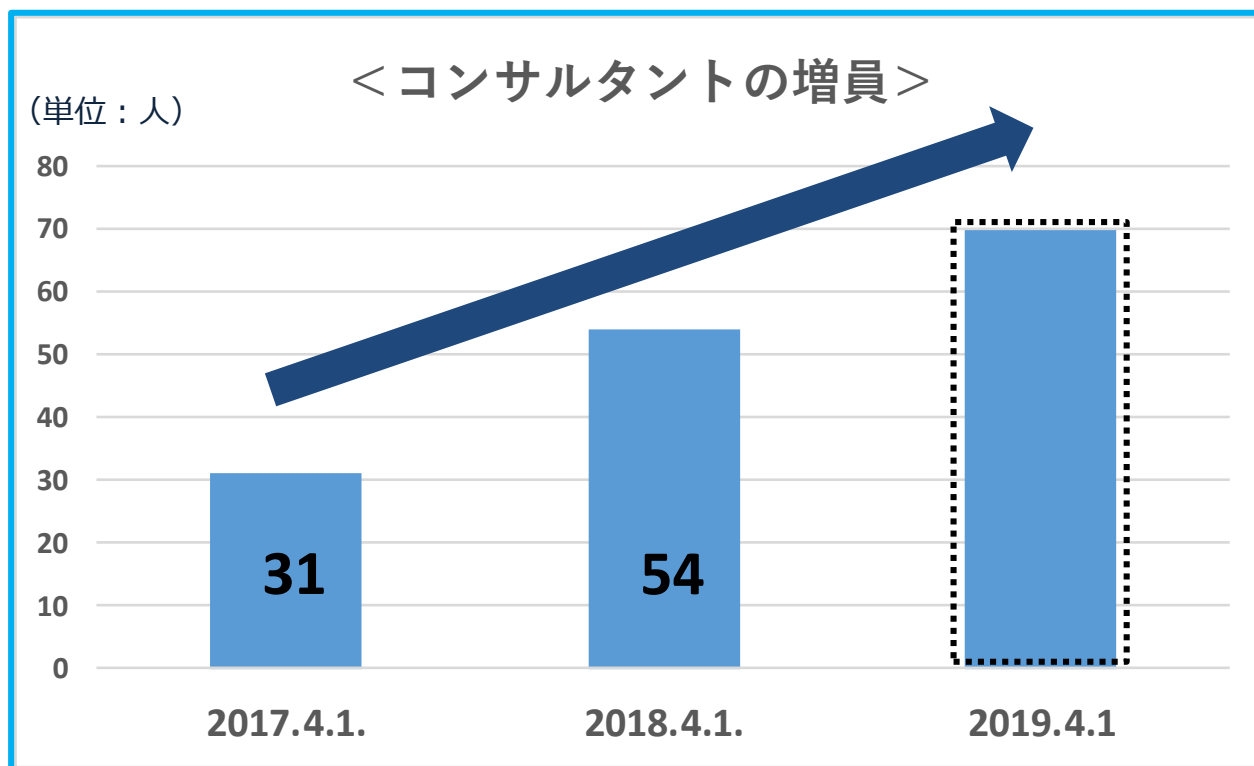
1.KPIマネジメントの徹底

2.コンサルタント数の持続的増員

→前期なみの増員を達成し、コストと利益のバランスを取る

3.スモールチーム戦略の推進

→チーム：マッチングの強化による成約件数の増加

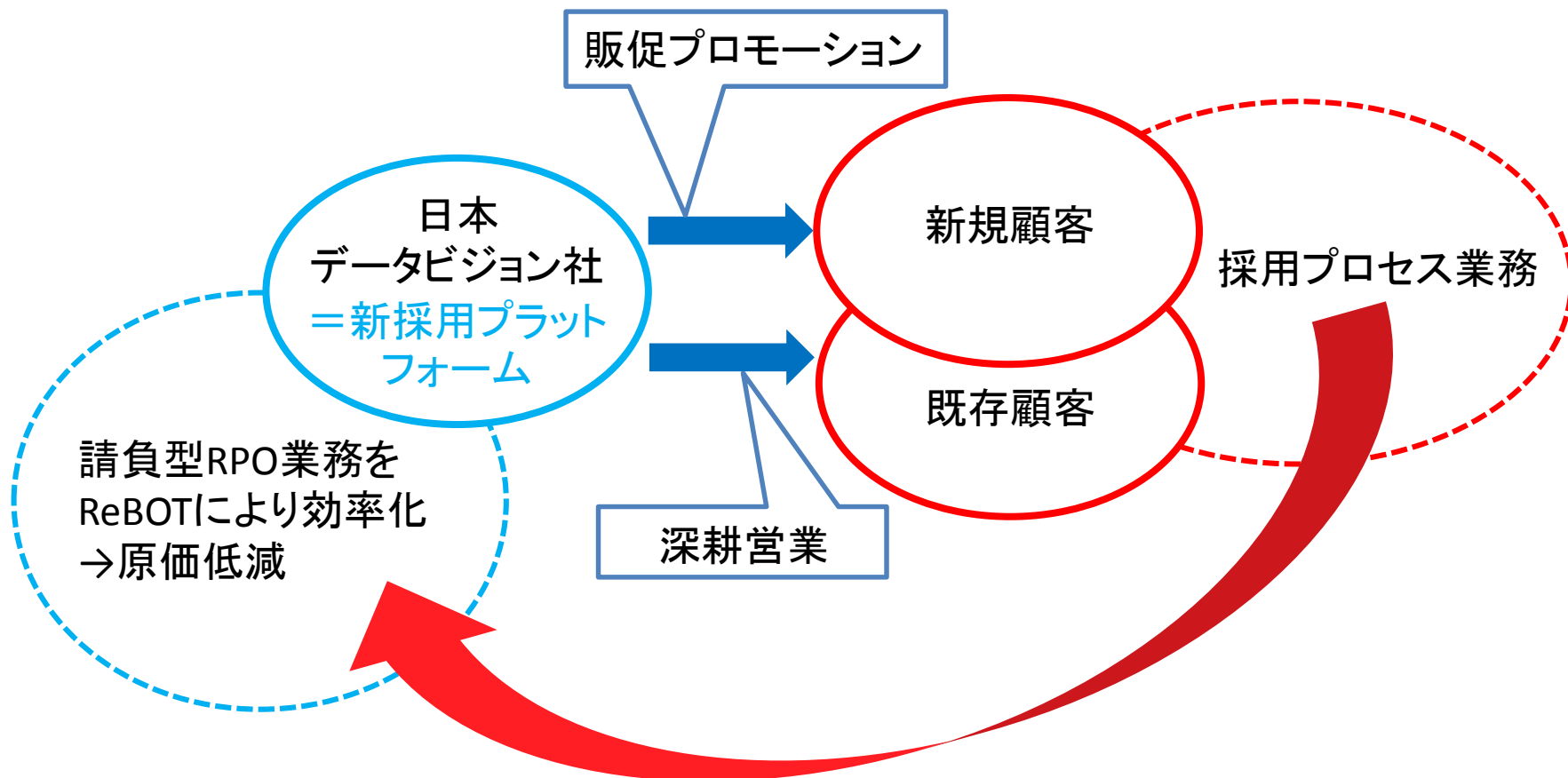


4-3 採用支援事業の成長戦略

・ HR-technologyアウトバウンド型新卒採用支援事業を「工場ワークス」に次ぐ、第2の成長エンジンとする。

→新サービスによる新規顧客の獲得（=175社の獲得目標）

→顧客の深耕営業とRPA（ReBOT）による原価低減（=利益率の向上）



この資料は、株式会社インターワークス（以下、当社）の現状をご理解頂くことを目的として、平成30年5月9日現在において当社が取得可能な情報に基づき作成したものです。

本資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性がございます。また、本資料にはいわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測、及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招きうる不確実性を含んでおります。それらのリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場環境、金利、通貨・為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報や将来にリスクイベントが発生した場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

以上を踏まえ、投資を行う際は、投資家の皆様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。